



令和4年度 夢ふくおかネットワーク 教員向けセミナーを開催しました!!

企業活動や障がいのある方の雇用について企業の方からお話をお聞きし、キャリア教育および職業教育の充実に活かしてもらおうと、特別支援学校及び小・中学校特別支援学級の先生方を対象に、夏休み期間中に教員向けセミナーを開催しました。今回は「株式会社セブン-イレブン・ジャパン」様、「ASKUL LOGIST 株式会社」様のセミナーの様子をお伝えいたします。

株式会社 セブン-イレブン・ジャパン



今回の教員向けセミナーでは、企業活動への理解を深めキャリア教育に活かすため、福岡市と包括連携協定を結ぶ(株)セブン-イレブン・ジャパンのご担当者様を講師としてお迎えし、企業の様々な取り組みについて、グループワークを取り入れながらお話いただきました。

まず初めに、総務法務本部 総合渉外部 副総括マネージャー 服部様にご挨拶いただいた後、総合渉外部 北九州ゾーン 行政推進担当 洲崎様がクイズ形式で店名の由来や、店舗数など(株)セブン-イレブン・ジャパンについて、魅力ある店舗づくりの仕方などのお話を交えながらご説明されました。

次に、社会課題への取り組みについてお話いただきました。(株)セブン-イレブン・ジャパンを含むセブン&アイグループでは、持続可能な社会の実現を目指し、環境宣言『GREEN CHALLENGE 2050』を策定し、4つのテーマで社会課題への取り組みを推進されています。例えば、セブン-イレブン・ジャパンではCO₂排出量削減について、店内の照明を蛍光灯からLEDに換える、太陽光パネルの設置を推進する、プラスチック対策については使用しているプラスチックの量を減らす、リサイクルを行うなど自治体と協力し、お客様にも協力をいただく工夫もしながら、企業としての責任を果たすために社会課題へ取り組んでいるそうです。

日時：令和4年8月5日(金)
会場：福岡市発達教育センター
参加者：合計16名
〔 小学校2名 中学校4名
特別支援学校10名 〕



← 総務法務本部
総合渉外部
副総括マネージャー
服部 様

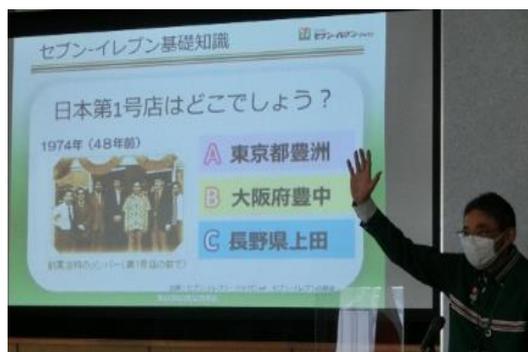


→ 総合渉外部
北九州ゾーン
行政推進担当
洲崎 様

『GREEN CHALLENGE 2050』

4つの取り組みテーマ

- CO₂排出量削減
- プラスチック対策
- 食品ロス・食品リサイクル対策
- 持続可能な調達



← クイズ出題
中の様子



そのほか、「開いてよかった」から「近くて便利」を目指し、お客様に選んでいただくための経営努力についてもお話をいただきました。

後半では「近くて便利」を目指し、(株)セブン-イレブン・ジャパンが日々取り組んでいる基本4原則の一つ、「品揃え」をテーマにグループワークを行いました。

グループワークでは立地条件の異なるお店が描かれている図を見ながら出店場所を決め、客層を予想し、商品の品揃えについて考えて発表を行いました。

参加者が日頃のコンビニの利用の経験を活かしながら熱心に考え、意見交換をする様子がとても印象的でした。



↑ 出店場所を決める資料



↑ グループワークのようす

【セブン-イレブン・ジャパン基本4原則】

- フレンドリーサービス (感じの良い接客をする)
- クリンリネス (清潔で気持ちのいいお店にする)
- 鮮度管理 (常に新鮮な商品を揃える)
- 品揃え (お客様のほしい商品を揃える)

本セミナーでは、企業の経営の在り方やマーケティング、社会課題への取り組みについて、セブン-イレブン・ジャパンの発展にご尽力されているご担当者様からお話をお聞きし、「企業活動への理解を深めることができた。今後は総合的な学習の時間や進路学習の場面に活かしていきたい」などの感想を参加者からいただきました。

～ 参加者からの感想の一部をご紹介します ～

- ・ 企業側からのSDGsの取り組みを知ることで社会の問題について考えることができた。グループワークを通してマーケティングやそれぞれの先生方からの視点を聞く楽しさを味わうことができた。“社会”に少し触れ、身近に感じる事ができた。(小学校)
- ・ 企業の取り組みを知ることができた。特にSDGsの観点からやお客様に満足してもらうための工夫などが沢山考えられているということが分かりました。(中学校)
- ・ 企業の考えや姿勢を学ぶことができました。社会へ送り出すタイミングの生徒たちと過ごしている自分にとって、本日のSDGsへの取り組み等を知ることは大切だと感じます。具体的な目標から現状を知り、学ぶことができました。(特別支援学校)

ASKUL LOGIST株式会社



テーマ 「企業文化について」

ASKUL LOGIST(株)では、会社と障がいのある方だけでなく、家族・学校・支援機関・医療機関など地域社会と連携した支援体制をとり特別支援学校の卒業生を多く採用しています。

「企業文化」とは企業と従業員の間で共有されている価値観や行動様式・生活習慣といわれています。ジョブコーチはこれを理解することでその企業の求める人物像が分かり、障がいのある方の採用のマッチングや定着支援に活かしています。今回はこの「企業文化」とは何か、また「企業文化」を理解することの大切さについて坂井様にお話しいただきました。

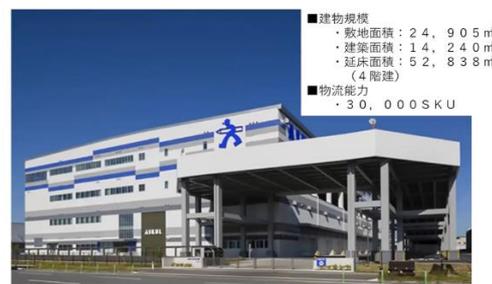
日時：令和4年7月29日(金)

開催方法:Zoom

参加者：合計23名

〔 小学校6名 中学校2名
高等学校1名 特別支援学校14名 〕

福岡物流センター



福岡物流センターASKUL LOGIST 株式会社 西日本物流事業本部 福岡物流センターは、オフィス用品などの通販会社であるASKUL株式会社の物流と配送を担っています。



↑ ASKUL LOGIST 株式会社
西日本物流事業本部 福岡物流センター
副センター長 坂井 博基 様

まず坂井様は企業の損益計算書や組織図などを示されながら、企業の利益構造や給与の在り方、組織や人事、障がい者雇用についてご説明をされました。「これらの考え方や状況は企業によって異なります。そのため企業と良好なコミュニケーションをとりながら情報をキャッチアップし、「企業を知る・理解する」ことが生徒を就労させるために必要である」とご説明されました。

次に、ASKUL LOGIST (株)では障がいのある方も健常者と同じように働いている状況をご説明されながら、「障がいとは何か」について触れ、企業が障がいのある方を理解し、働きやすいように取り組む必要性についてお話されました。特にサポートの必要性について、ヘルプとの違いに触れながらご説明され、学校でもその違いに気をつけながらサポートを行ってほしいということでした。

サポートとヘルプの違い

ヘルプ⇒失敗しないように何でも先回りして準備してあげること。
(結果) 永遠に自立出来ない。自己肯定感も育たない。

サポート⇒自発的なやる気、自発的な行動を尊重しやらせてみて失敗させる。失敗させてもその挑戦や行動を承認し諦めない心を応援すること。
(結果) いつかそれが成功に繋がる。自己肯定感が育つ。

状況の把握、他人への関心が重要

また、現在の労働力の問題をグラフなどのデータで示されながら、障がい者雇用制度が整うなかで企業での雇用が進まない理由について、障がいのある方の採用方法や支援の制度、働く様子などを企業側が十分に把握していないことを挙げられ、学校が企業の人事担当者と良好なコミュニケーションをとりながら協力し、お互い共通の利益を見つけ、問題解決を行うことの大切さについてお話をされました。



このように、障がい者雇用に携わることから、支援者である学校が企業の情報を得て、良好なコミュニケーションがとれる関係を築くことや、生徒の状況も把握し、働くうえで必要な情報は企業と共有することなど、学校が企業と生徒の間に立って就労を進めていく必要性について具体的にお話されました。

最後に、「働くために個人に求める能力」を身につけるためには「働く目的」を持つことが大事であり、そのためには個別の支援が大切だということをお話されました。

障がい者雇用に携わることより貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

夢だより Vol.48 に ASKUL LOGIST (株) の障がい者雇用について掲載しています。是非ご覧ください。

～ 参加者からの感想の一部をご紹介します ～

- ・障がいのある人を雇用する側の出発点や、失敗、それを基に見直しや努力を重ねていることを知りました。今のような形になるまでに、まさに雇用する側とされる側の「すり合わせ」があったと思います。(高等学校)
- ・「企業文化の理解」についてお話いただき、企業で働いていない自分はわかっていないからこそ、知ろうとする努力を続けなければならないことをあらためて心に刻みました。また、ASKUL 様の働き続けるためのさまざまな取り組みや考え方は、自分自身の教育活動に生かすことができることが多く、具体的に考えていきたいと思っています。(特別支援学校)
- ・日々の学習の中で、子どもたちが失敗したときこそ、次の成功につながるように支援していきたいと思っています。(小学校)



障がい者インターンシップ事業

福岡市では就労経験の少ない障がいのある方を対象に「福岡市障がい者インターンシップ事業」を行っています。

本年度は特別支援学校高等部生徒 12 名が実習を行う予定で、福岡市発達教育センターでは 10 月に 4 名の生徒が 5 日間の（1 日 5 時間）実習を行いました。

実習初日は集中して取り組むことができていましたが、2 日目午後頃になると疲れがでてきて集中できない生徒が多くなってきます。体力が続かないことや、慣れない実習で気づかれしていることもあります。睡眠時間や休息のとり方に課題がある場合もあります。特に睡眠が取れていない生徒は夜遅くまでスマートフォンを利用していることが多いようです。長く働き続けるためには体調の管理も欠かせません。睡眠や休息の取り方など、長く働き続けるための習慣を身につけることに本人や家庭・学校が意識して取り組んでほしいと思います。



↑ 除草のようす



↑ クリップ止めのようす



↑ 除菌（スリッパ）のようす

また、実習生からは「敬語で話せるように気をつけたり、規則正しい生活を送れるよう心掛けたい。」「社会に出るために、時間を守る大人になりたい。」「自分で質問できるようになることと作業スピードを意識して頑張りたい。」「周りの人に気を配りながら、作業などに取り組みたい。」などの課題があがってきました。今後はこの課題へ取り組み、就労を目指します。実習生のがんばりに期待しています！！

TOPCS

最低賃金が 900 円になりました（令和 4 年 10 月 8 日より）

最低賃金制度とは、最低賃金法に基づき国が賃金の最低限度を定め、使用者はその最低賃金額以上の賃金を労働者に支払わなければならないとする制度です。原則として事業場で働く常用・臨時・パート・アルバイトなど雇用形態や呼称の如何を問わずすべての労働者とその使用者に適用されます。また、最低賃金には、地域別最低賃金と特定最低賃金があります。



※ 就労継続支援 A 事業所でも適用されます。 ▶ 福岡労働局 リーフレット（福岡県の特定最低賃金）より

福岡市教育委員会 発達教育センター

福岡市中央区地行浜 2 丁目 1-6

TEL 092-845-0015 FAX 092-845-0025

E-mail yume_network@city.fukuoka.lg.jp

HP <http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/hattatuc/>

「夢だより」についてのご感想、ご意見などをお寄せください。

※左記参照

